

<4 球団監督及びキャプテンのコメント>

■西田真二監督（香川 OG）

まずは、この度の西日本豪雨により、被害に遭われた方へお悔やみとお見舞いを申し上げます。私たちにできることとして、野球を通じて、少しでも元気を与えられるよう、行動していきたいと思います。

前期シーズンを振り返って、4月は、秀伍を軸にリチャードソン、原田、畝などを中心とした投手陣が良く頑張ってくれました。5月は、高知に追い上げられましたが、振るわなかった打線を若干変えながら、クリスなどの中心選手が、チャンスの場面でよく打ってくれました。高知と競っていた中で、そのような点で負けない野球ができたということが優勝に繋がったのではないかと思います。非常に投打にしっかりとした戦いができたと思います。後期シーズンに向けては、優勝はもちろんですが、やはり選手の個々のレベルアップという意味でも、前期に成績の良かった選手やレギュラー陣を中心に試合の中で数字にこだわってほしいと思います。各個人、バッターであれば、3割以上コンスタントに打てる、ホームランを増やす、ピッチャーであれば、防御率、勝ち星、セーブなど、個人のレベルを上げていくということが大事になってくると思います。チームとしては、前期シーズン優勝していることで、チャンピオンシップを見据えた戦い方ができるので、とにかくそこまでにケガ人が出ないということが大事になります。夏場はかなり気温も高いですし、コンディションの部分も踏まえて、しっかりチャンピオンシップを見据えて、戦っていきたいと思います。

■三好一生キャプテン（香川 OG）

前期シーズンを振り返って、まずは守備面で、投手陣が立ち上がりに失点する場面が多かったので、後期ではそこをしっかりと課題を持って取り組みたいと思います。また、打撃面は、すごく繋がっていたので、その点はしっかりと続けていけるようにバットを振り込んでいきたいと思います。後期に向けては、一戦必勝でまずは優勝を目指して頑張りたいと思います。また、猛暑が続くようですが、暑さに負けず、みなさんに元気を与えられるような切磋琢磨した試合をしていきたいと思います。チャンピオンシップに向けて、一人一人が成長できるような試合を続けていけるように、また、一人でも多くアイランドリーグからNPBに行けるように、全員で頑張っていきたいと思いますので、応援よろしくお願い致します。

■駒田徳広監督（高知 FD）

前期は、今までにないくらいの粘り強く一生懸命に、一つずつのプレーを大事に、戦ってくれましたが、高知ファイティングドッグスが経験しなくてはいけないことは何か、それはもう一つだけです。天王山で勝ったり負けたりすることです。天王山を味わったことのないチームは、優勝するにはダントツで全部勝ってしまうなど、そのくらいの勝ち方をしないと、優勝はできません。強いチームになるためには、天王山をとにかく戦いたい、負けてもいい、

戦いたい、そういう体験をさせなくてはいけない。そういうことを思いながら、5月は非常に頑張りました。ある一つのターニングポイントとなった試合で、逆転負けをしてしまった試合がありました。ピッチャーの継投で悔やまれる試合でした。その時、僕自身の考えでは、天王山ではここではなく、もっと後に構える過密日程の中で、中継ぎがどうしても苦しいといった状況まで引っ張ったところが天王山なんだぞという考えでおりました。まだここでは早いと思ってしまった継投がもの見事に、裏目に出て、結果的に天王山までいくことができませんでした。これはもう、僕自身が前期にしてしまった大きなミスだったと思います。前期を考えてみますと、香川さんに比べたら先発から抑えにリレーした試合はほぼ勝てるのですが、中継ぎが入ってしまった試合は非常にややこしい試合になってしまい、中継ぎの力の差が大きな差になって、最終的には優勝できなかったという風に考えています。後期はその辺りでピッチャーがいかにか頑張ってくれるか、先発柱以外のピッチャー、これはいつもうちの課題です。柱以外のピッチャーがどこまで粘り強く頑張ってくれるかというところに期待しております。ザック・コルビーという外国人選手が抜きましたので、ほぼ日本人の打線になります。その中で一人ずつ力が向上していってくれれば、天王山を戦えるようなチームになって、それをとれるようなチームになっていってくれるのではないかと思います。チーム全体のことを言いますと、陸イグアナと海イグアナがいます。誕生は一緒です。ただ、成長していく段階で、進化していった。そこが違うので、海と陸に分かれていったわけです。うちはうちで、うちの発達の仕方、発展の仕方、強いチームにしたいと思います。期待しててください。

■安藤優作キャプテン（高知 FD）

前期シーズンは、前半戦に7勝7敗で勝ったり負けたりで、苦しい戦いが続きましたが、そこから連勝をして、2位という結果となりました。連勝をした中で、一番感じたことは、チームの雰囲気が一番良いときが、連勝に繋がり、悪いときは、連敗に繋がるという印象を感じました。そこで、チーム全体が若いということで、後期は、若さを前面に、暑い中でもしっかり球場全体が盛り上がるように、若さを出した試合をしていき、最終的には、前期に負けてしまった香川を倒して優勝できるようにしたいと思います。

実戦のところというと、ピッチャー陣に暑い中でもしっかりと踏ん張ってもらい、打線は、しっかりと振れる選手が多くいるので、その選手たちが、繋げてしっかり点を取り、ピッチャーを盛り上げられるようにしていきたいと思います。

■河原純一監督（愛媛 MP）

前期の戦いについて、開幕前にもお話をさせて頂きましたが、約半数くらいの選手が入れ替わってどういうチームになるのか自分でも想像できないというような形で話をし、前期が開幕して4月は勝ったり負けたりで、成績自体は悪いというほどの成績ではなかったのですが、勝った試合の中でも、たくさんのミスがあったり、それが積極的なミスならまだしも、

消極的なミスが多く見られて、その辺を改善していかないと、これは今運良く勝っているだけで、これから少し厳しいだろうなという感じで見ていました。そうすると、やはり4月の終わりごろから5月にかけて、大きな連敗をしてしまいました。実力的に仕方がないという部分もあるし、もう少しできるのになって思う部分もありました。ですがなかなか、経験のない選手が多いので、それは仕方がないのかなと思いました。仕方ない、仕方ないと言っているのもそれこそ仕方がないので、そこをいかに後期に向けて変えていくかということだと思います。1番の原因は、バッテリー含めた守りだと感じています。軸になる投手が一人二人といれば、なかなか大きな連敗にはならなかったと思います。ただ、そういう選手が、残念ながら前期の戦いの中では、出てこなかったというのが要因だと思います。そういった課題の中、後期に向けての戦いに関しては、もちろん選手個々がどういう風感じて、後期の戦いに臨むのかということになってきますが、すぐに野球が上達するわけでもないし、こういう暑い中、これから試合をやっていかなければならない状況で、やはりこの中断期間でどれだけ練習したかがものを言うと思っていますので、そういう面では、そのことを大事に思ってこの中断期間も取り組んできました。

個々の能力もそうですが、正直、最後は気持ちの問題になってくると思います。また、香川オリーブガイナズ、高知ファイティングドッグスに前期の戦いは差を広げられてしまったので、そこを埋められるように戦っていきたいと思います。

また、愛媛県の今回の豪雨で各地に様々な被害が出ました。私たちも後期の始まる前の正直大変な時期ではありましたが、私たちにできることは何かを考え活動させて頂きました。でも、私たちは野球もしなければなりません。ということで、もちろん野球も、そういった活動も含めて、私たちは県民球団ですので、今こそそのような意識を強く持って後期しっかり戦っていきたいと思います。宜しくお願い致します。

■福田融司キャプテン（愛媛MP）

前期は3位という不甲斐ない結果に終わってしまいました。前期の序盤のバッティング、繋ぐ意識で粘ってヒットを打つかそういう部分が、前期の後半にできていたらもう少し勝っていたと思います。守備が乱れてしまった部分があって、そこが最後まで修正が利かなかったということが後半の負けに繋がったと思うので、この中断期間は、チーム全員が必死になってみっちり練習をしました。その自信と成果が、後期シーズンに発揮できれば優勝できると思うので、一生懸命後期シーズンを戦っていきたいと思います。

また、この度の西日本豪雨における甚大な被害に遭われた被災地にボランティア活動に行かせて頂きました。ボランティア活動で被災された方々のために少しでも役に立てればという思いでお手伝いをさせて頂きましたが、逆に励ましの言葉を頂きました。元気を頂きました。僕たちは野球選手なので、野球で一生懸命なプレー、ハツラツなプレーで、被災された方々に少しでも元気を届けられるといいなと思います。応援よろしくお願い致します。

■石井貴監督（徳島 IS）

昨年、優勝をさせて頂いてから、チームがガラッと変わりましたが、前期はピッチャー陣で頑張っしてほしい人がなかなか勝ち星を上げられませんでした。先発投手陣を補うどころか、ブルペン陣も一緒になって打たれてしまったというところで、特に前期は投手陣のところで非常に苦労しました。打撃面は、繋ぐ野球として取り組んでいましたが、なかなか繋がっていかず、バントなどを絡めてやっていきましたが、うまくいかないという苦しい前期でした。後期は、特に打撃陣は繋ぐ野球というところは意識して頑張っていきたいですし、投手陣は先発・ブルペンと力を合わせて一つでも順位を上げていくように、当然優勝を狙いますが、そういった後期のチーム作りをしていきたいと思っています。後期も宜しくお願い致します。

◆垂井佑樹キャプテン（徳島 IS）

前期は、投打がかみ合わなかったということが、結果が出なかった一番の原因だと思います。序盤に大量得点できた試合でも、徐々に追いつかれ、ひっくり返されそのまま負けてしまう試合もありました。また、投手陣が踏ん張ってロースコアに持ち込む中で、打者が勝ち切れなかったという試合も沢山ありました。最後の最後で勝ち切れなかったという試合がたくさん続きました。その中で、チーム全体の雰囲気としても勝てないのではないかと、このままずるずると行くのではないかとという雰囲気が、払拭されないまま、4月、ホームでの1勝ができませんでした。5月に入って、何とか雰囲気から変えていって盛り返していこうということでチームでもミーティングを重ねましたが、根本的な解決までには至らず、ずるずると勝ち切れぬまま、前期が終わってしまいました。先発投手が勝ち星を挙げられない試合が続いたので、後期は先発のローテーションの選手たちが、勝ち星を挙げられるように守備からリズムを作って、攻撃に繋げていくということをテーマに、この中断期間は、毎日守備練習もそうですし、バッティングの方でも練習をしてきました。前期は、選手全員が本当に悔しい思いをして戦ってきたので、その気持ちは誰も忘れていないと思います。その悔しい気持ちを忘れず、自分たちが最後は優勝して日本一連覇をするという気持ちを強く持って、後期に臨んでいきたいと思っています。後期も宜しくお願い致します。